

ウクライナにおける原子力安全と核セキュリティの枠組みに関する
G7不拡散局長級会合（NPDG）声明

G7不拡散局長級会合は、ウクライナのザポリヅジャ原子力発電所における原子力安全及び核セキュリティの促進に向けたIAEAの取組を支持する、2022年8月10日のG7外相声明を想起する。

G7不拡散局長級会合は、ロシア軍によるウクライナの原子力施設の継続した管理がこうした施設の安全及び核セキュリティに与える深刻な脅威に引き続き深い懸念を抱いている。このような行動は、原子力事故や事案のリスクを著しく増大させ、ウクライナ、近隣諸国及び国際社会の人々を危険にさらしている。ロシア連邦は、国際的に認められたウクライナの国境内から直ちに軍を撤退させ、ウクライナの領土及び主権を尊重しなければならない。

我々は、ザポリヅジャ原子力発電所とそれによって生産される電力は当然のことながらウクライナに帰属することを再確認し、同原発をウクライナの電力網から切り離そうとするロシアによる試みは容認できないことを強調する。我々は、ザポリヅジャ原子力発電所が軍事活動や軍事物資の貯蔵のために使用されてはならないことを強調する。

G7不拡散局長級会合は、ザポリヅジャ原子力発電所周辺の原子力安全、核セキュリティ及び保障措置に関する懸念に対処するために、グロッシーIAEA事務局長が発表した8月29日のIAEA主導ミッションを歓迎する。我々はまた、今回のミッションに必要な支援を提供するためのグテーレス国連事務総長による取組を歓迎する。

我々は、この訪問が、ウクライナの領土に対する同国の完全な主権を尊重する形で実施されなければならないことを引き続き強調する。

我々は、IAEAを全面的にかつ継続的に支援することを改めて表明する。我々は、IAEA職員がウクライナの全ての原子力施設に適時に、安全かつ妨げられることなくアクセスすること、これらの施設の運営に責任を有するウクライナ人職員と直接に、また、干渉されることなく協働することが可能でなければならない。これらの施設の運営に責任を有するウクライナ人職員は、脅威や圧力を受けることなくその職務を遂行することが許されること、及び同施設における原子力安全及び核セキュリティに係る全ての必要な技術的要素に関連する情報を取得することが可能でなければならない。ウクライナの原子力安全、核セキュリティ及び保障措置の強化の

(仮訳)

ためには、このような取組を実施する全ての個人の安全に注意が払われなければならない。

我々は、グロッシー事務局長により示された「原子力安全及び核セキュリティの7つの柱」の重要性を、ウクライナの原子力発電所にとり特別な重要性と緊急性を有するものとして再確認し、ウクライナにおいて原子力施設の原子力安全と核セキュリティを支えるために、IAEAがウクライナにおけるこれらの柱の実施を促進することを支持する。

我々は、ウクライナの原子力発電所の原子力安全、核セキュリティ及び保障措置の適用を確保するために、IAEAがウクライナへの技術支援の計画等を通じ取り組む中で、IAEAを財政的及び技術的に引き続き支援する意図を有する。

我々は、ウクライナの原子力発電企業に対する最近の悪質なサイバー活動について、深刻な懸念を表明する。また、ウクライナにおけるサイバーセキュリティへの支援を継続する意図を有する。

G7が主導するグローバル・パートナーシップ・イニシアティブの創設者として、我々は20年以上にわたりウクライナと共に原子力施設の安全と核セキュリティの強化に取り組んできた。したがって、我々は、これらの施設を維持するため、また、ウクライナがロシアによる侵略戦争が引き起こした、ウクライナの原子力施設の安全と核セキュリティへの深刻なリスクに対処するウクライナを支援するための国際的な取組を支える特別な責任を有する。

我々は、IAEAの取組に対する支援可能な分野の概略をまとめるためにIAEAの代表を招き、G7グローバル・パートナーシップ・イニシアティブ及び2022年10月にベルリンで開催されるグローバル・パートナーシップ会議の場を活用する意図を有する。

我々は、核兵器不拡散条約(NPT)運用検討会議において、ロシアが、ウクライナの原子力施設の保障措置、安全、核セキュリティをめぐる深刻な状況に対する責任を認めることを拒否し、コンセンサスを阻止したことを深く遺憾に思う。これは誠意ある行動とは見なし得ない。他の全てのNPT加盟国は、この成果文書案を支持した。

(仮訳)

成果文書案は採択されなかったとはいえ、NPTの3つの柱全てにおいて前進するための、確かな青写真を提供するものである。